

週間火山概況 (平成 27 年 3 月 13 日 ~ 3 月 19 日)

【火山現象に関する警報等の発表状況】

いずれの火山についても、噴火に関する予報警報事項（警戒が必要な事項）に変更はありません。

表 1 火山現象に関する警報等の発表履歴 (平成 27 年 3 月 13 日 ~ 3 月 19 日)

| 発表日時 | 火山名 | 特別警報・警報・予報 | 概要 |
|----------------------------------|-----|------------|--------------|
| 13 日 03 時 07 分 17 日 06 時 53 分 | 桜 島 | 降灰予報 | 噴火に伴う降灰地域予想 |
| 毎日 07 時、17 時 | 三宅島 | 火山ガス予報 | 島内の火山ガスの分布予想 |

表 2 3 月 19 日現在の火山現象に関する警報等の発表状況

| 特別警報・警報・予報 | 噴火警戒レベル及びキーワード | 該当火山 |
|------------|----------------|---|
| 火口周辺警報 | レベル 3 (入山規制) | 御嶽山、桜島、口永良部島 |
| | 入山危険 | 西之島 |
| | レベル 2 (火口周辺規制) | 吾妻山、草津白根山、三宅島、阿蘇山、霧島山(新燃岳)、諏訪之瀬島 |
| | 火口周辺危険 | 硫黄島、霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺) |
| 噴火警報(周辺海域) | 周辺海域警戒 | 福徳岡ノ場 |
| 噴火予報 | レベル 1 (平常) | 雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、秋田焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、安達太良山、磐梯山、那須岳、浅間山、新潟焼山、焼岳、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、九重山、雲仙岳、霧島山(御鉢)、薩摩硫黄島 |
| | 平常 | 上記以外の活火山 |

印のついた火山は火山現象に関する海上警報も発表中。



図 1 火山現象に関する警報を発表中の火山 (3 月 19 日現在)

【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

吾妻山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

火山活動はやや活発な状態で推移しています。

今期間、火山性地震は観測されませんでした（前期間 25 回：図 2）。火山性微動は観測されていませ

ん。
 浄土平火口カメラ（東北地方整備局）により、16 日に大穴火口外の北西側で新たな融雪域と高さ数メートルの弱い白色の噴気を確認しました。同日、福島県の協力により上空からの観測を実施し、融雪域と噴気を同様に確認しました。遠望カメラによる大穴火口からの噴気は、やや活発な状態が続いています。

浄土平（大穴火口の東南東約 1 km）の傾斜計¹⁾では、長期的にみると 2014 年 4 月頃からの西（火口方向）上がりの変動が継続しています（図 3）。

GNSS²⁾連続観測では、2014 年 9 月頃から一切経山南山腹観測点（大穴火口の北約 500m）が関係する基線で変化がみられており、一切経山付近の膨張を示唆すると考えられます。

また、国土地理院の広域的な地殻変動観測結果では、2014 年 12 月頃から一部の GNSS²⁾基線で、山体の膨張を示す小さな地殻変動がみられます。

大穴火口付近では小規模な噴火が発生する可能性がありますので、大穴火口周辺（火口から概ね 500 m の範囲）では弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石³⁾、火山ガスに注意してください。

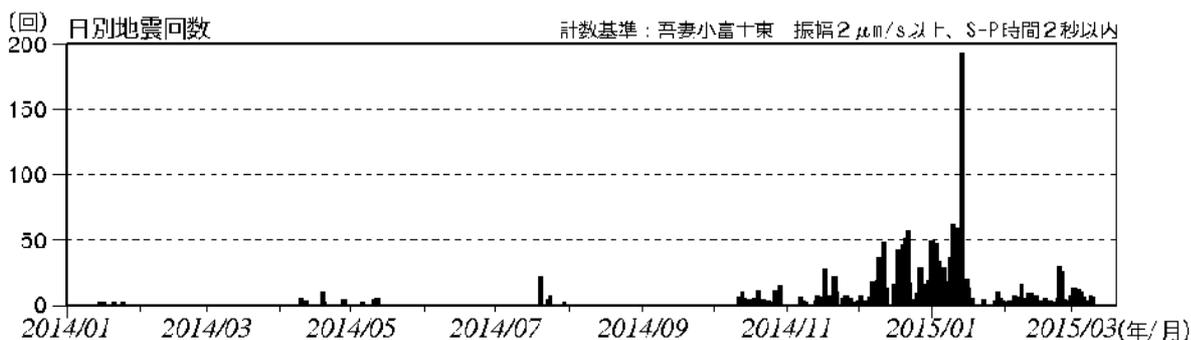


図 2 吾妻山 火山性地震の発生状況（2014 年 1 月 1 日～2015 年 3 月 19 日）

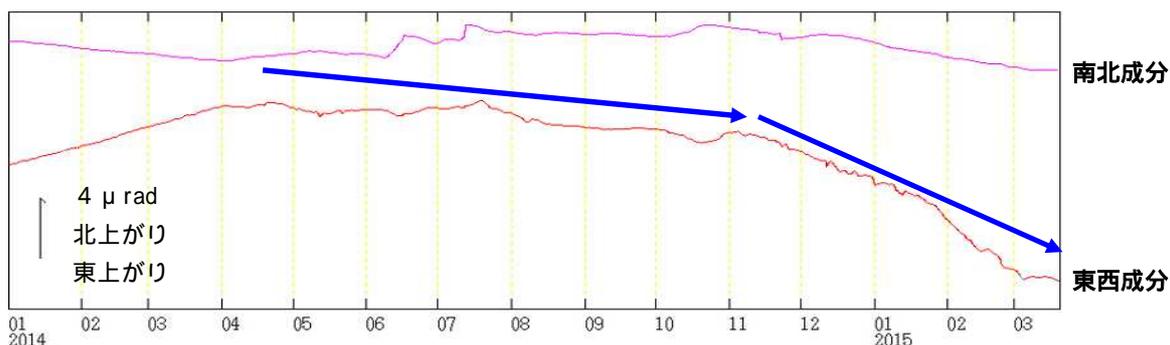


図 3 吾妻山 浄土平観測点での傾斜変動（2014 年 1 月 1 日～2015 年 3 月 19 日）

・ は、傾斜変動傾向（東西成分）を示します。

草津白根山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

火山活動はやや活発な状態で推移しています。

16 日に群馬県の協力により実施した上空からの観測では、引き続き湯釜火口壁北側に地熱域が認められました。また、前回の観測（2014 年 12 月 10 日）で認められた湯釜火口壁北西側の地熱域も引き続き認められました。その他湯釜付近の状況に特段の変化はありませんでした。

湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が 2014 年 3 月上旬から増加し、8 月 20 日以降はやや少ない状態で経過しています。2015 年 1 月以降は一時的な火山性地震の増加もみられています。

GNSS²⁾観測によると、湯釜を挟む基線で 2014 年 4 月頃からわずかな伸びの変化が継続しています。また、湯釜周辺に東京工業大学が設置した傾斜計¹⁾によると、2014 年 3 月から湯釜付近浅部での膨張を示

す変動が継続しています。

全磁力観測によると、2014年5月以降の湯釜近傍地下の温度上昇を示す変化は、7月以降は停滞しています。

今後、小規模な噴火が発生する可能性があることから、湯釜火口から概ね1kmの範囲では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺のくぼ地や谷地形などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがありますので、注意してください。

おんたけさん**御嶽山 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、入山規制)]**

山頂火口からの噴煙は、白色で火口縁上概ね100mで経過しています。

火山性地震は少ない状態で経過していますが、2014年8月以前の状況には戻っていません。火山性微動は観測されていません。

地殻変動観測では、火山活動の高まりを示す変化は観測されていません。

御嶽山では、火山活動は引き続き低下してきており、現状で、2014年9月27日と同程度、またはそれを上回る規模の噴火が発生する可能性は低くなっていますが、火口列からの噴煙活動や地震活動は続いており、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。

火口から概ね3km程度の範囲では大きな噴石³⁾の飛散と火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石³⁾が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流の可能性がありますので注意してください。

みやげじま**三宅島 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]**

噴煙は白色で、火口縁上概ね200m以下で経過しています。

火山性地震は、少ない状態で経過しています。

二酸化硫黄の放出が長期的に継続しており、火山活動はやや活発な状態で推移しています。

三宅村によると、山麓ではまれにやや高濃度の二酸化硫黄が観測されています。

山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生する可能性は低くなっていますが、噴煙活動は続いており火口近傍に火山灰等が噴出する可能性があるため、山頂火口周辺(雄山環状線内側)では噴火に警戒してください。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるためと予想される地域では、火山ガスに警戒してください。

にしノしま**西之島 [火口周辺警報 (入山危険) 及び火山現象に関する海上警報]**

これまでの海上保安庁、海上自衛隊等の観測によると、噴火活動の継続が確認されています。

西之島では、今後も新たに形成された陸地にある火口で噴火活動が継続すると考えられます。また、西之島周辺の海底で噴火が発生する可能性も引き続き考えられ、噴火による影響が海上まで及んだ場合、弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾や、水面を高速で広がるベースサージ⁴⁾等の影響が概ね2kmの範囲に及ぶおそれがありますので、西之島の中心から概ね4km以内の範囲では噴火に警戒してください。

いおうとう**硫黄島 [火口周辺警報 (火口周辺危険) 及び火山現象に関する海上警報]**

火山性地震は少ない状態で経過しています。火山性微動は観測されていません。

GNSS²⁾観測によると、地殻変動は2014年12月上旬頃から隆起の傾向がみられ、2015年1月中旬頃から隆起速度が上がっていましたが、2月上旬頃から停滞しています。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生しています。このことから火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火が発生している地点(ミリオンダラーホール(旧噴火口)等)及びその周辺では噴火に警戒してください。

ふくとくあかのぼ**福德岡ノ場 [噴火警報 (周辺海域警戒) 及び火山現象に関する海上警報]**

これまでの海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁による観測によると福德岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されるなど、やや活発な状態で推移しており、今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では噴火に警戒してください。

あそさん**阿蘇山 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]**

阿蘇山では、噴火活動が続いています。

噴火は断続的に発生し、14日に灰白色の噴煙が最高で火口縁上800mまで上がりました。

13日及び17日に現地調査を実施しました。141火孔⁵⁾からの鳴動と、灰白色の噴煙を確認しました。二酸化硫黄の放出量は1日あたり800トン(前回11日1,700トン)とやや多い状態でした。

中岳第一火口では、13日、14日に遠望カメラ(高感度カメラ)で、赤熱した噴石³⁾が火口縁上に上がっているのを確認しました。

火山性微動の振幅は、概ね大きな状態が継続していますが、9日以降はやや小さくなりました(図4)。また、噴火に伴う空振を時々観測しています。

GNSS²⁾連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線で、わずかな伸びの傾向が認められます。

中岳第一火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒してください。火口周辺では強風時に小さな噴石³⁾が1kmを超えて降るため、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石³⁾にも注意してください。

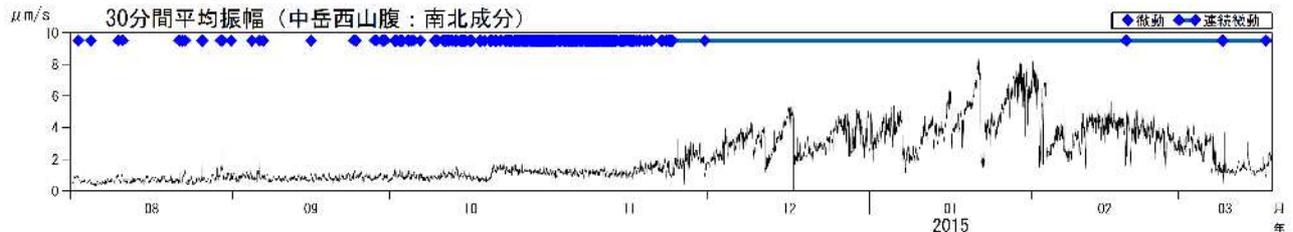


図4 阿蘇山 火山性微動の30分間平均振幅(2014年8月1日~2015年3月19日)

霧島山(新燃岳) [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

新燃岳では、噴火は発生しませんでした。

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されていません。

傾斜計¹⁾では、火山活動に伴う特段の変化は認められません。

GNSS²⁾連続観測では、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2011年12月以降鈍化・停滞していましたが、2013年12月頃から伸びの傾向が認められます。

新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性がありますので、新燃岳火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石³⁾(火山れき⁶⁾)が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。降雨時には、泥流や土石流に注意してください。

霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺) [火口周辺警報(火口周辺危険)]

霧島山のえびの高原(硫黄山)周辺では、火山性地震が時々発生しました(図5)。火山性微動は観測されていません。15日から18日に実施した現地調査では、硫黄山周辺に熱異常域はなく、噴気等も認められませんでした。

えびの高原(硫黄山)周辺では、表面現象には異常は見つかっていませんが、地震活動が継続していますので、えびの高原の硫黄山から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒してください。

風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石³⁾に注意してください。

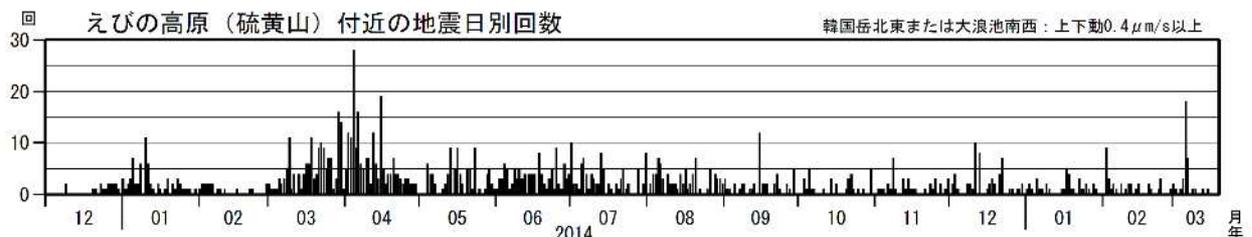


図5 霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺) 火山性地震の日別回数(2013年12月1日~2015年3月19日)

桜島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)]

桜島では、活発な噴火活動が続いています。

大隅河川国道事務所の有村観測坑道及び京都大学防災研究所のハルタ山観測総合坑道に設置している傾斜計¹⁾及び伸縮計⁷⁾では、2015年1月1日頃から山体の膨張と考えられる変化が継続しています(図

6)。GNSS²⁾連続観測では、桜島島内の基線で、2014年7月頃から停滞またはわずかな縮みの傾向がみられていましたが、2015年1月上旬頃から伸びの傾向がみられます。

昭和火口では、爆発的噴火が23回発生しました。17日06時33分の爆発的噴火では、多量の噴煙が火口縁上3,300mまで上がりました。同日15時37分の噴火では、ごく小規模な火砕流が発生し、昭和火口の南東側へ約600m流下しました。同日20時18分の爆発的噴火では、弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾が3合目(昭和火口より1,300~1,800m)まで達しました。また、14日の爆発的噴火により、鹿児島市有村町の有村溶岩展望所付近で、最大約2cmの小さな噴石(火山れき)を確認しました。

同火口では、夜間に高感度カメラ⁸⁾で明瞭に見える火映を19日に観測しました。

南岳山頂火口では、噴火は発生しませんでした。

GNSS²⁾連続観測では、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)の膨張を示す伸びの傾向は、2013年6月頃から停滞していましたが、2015年1月から伸びの傾向がみられます。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石³⁾(火山れき⁶⁾)が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

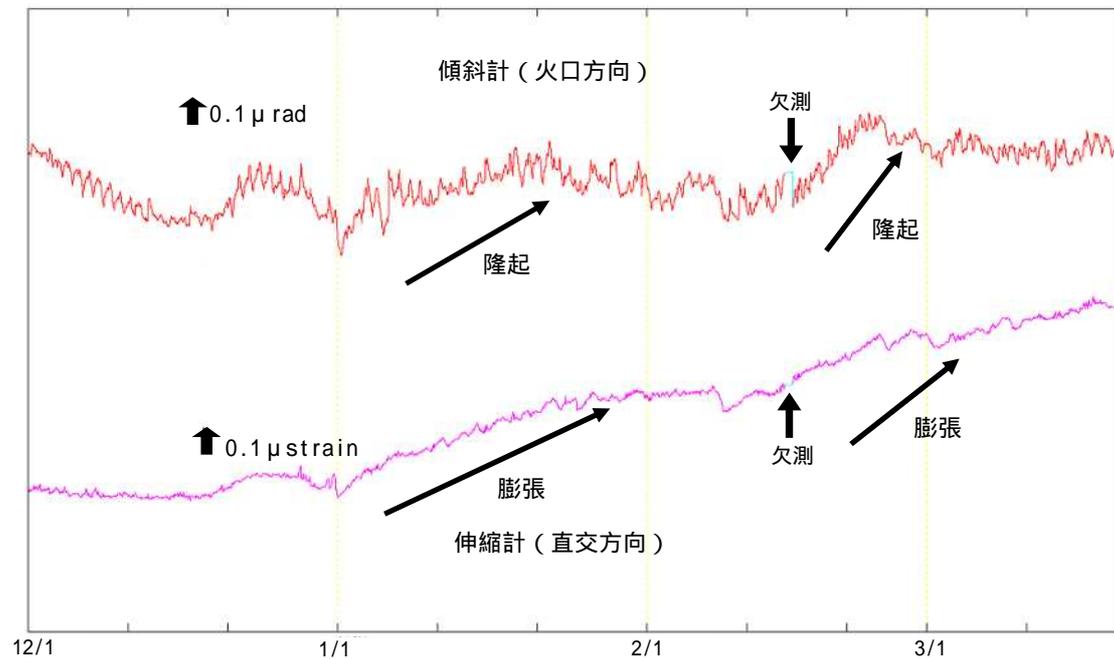


図6 桜島 有村観測坑道の傾斜変動と伸縮変動(2014年12月1日~2015年3月19日)

くちのえらぶじま

口永良部島【火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)】

口永良部島の火山活動は活発な状態が継続しています。

噴火は発生しませんでした。新岳火口からの噴煙量は2014年8月3日の噴火前に比べて多い状態が継続しており、白色の噴煙が最高で火口縁上400mまで上がりました。

火山性地震が時々発生しています。火山性微動は観測されていません。

GNSS²⁾連続観測では、2014年12月頃から一部の基線にわずかな伸びの傾向が認められます。

東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所及び屋久島町が15日に実施した観測では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり1,600トン(前回3月11日1,800トン)と多い状態でした。

噴煙活動等は継続しており、今後も2014年8月3日と同程度の噴火が発生する可能性があります。

また、火山ガス観測や地殻変動観測によると、今後、爆発力が強い噴火や規模の大きな噴火に移行する可能性もありますので、火山活動の推移を引き続き注意深く見守る必要があります。

新岳火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒してください。向江浜地区から新岳の南西にかけて、火口から海岸までの範囲では火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石³⁾が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。

すわのせしま

諏訪之瀬島【火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)】

諏訪之瀬島では今期間、噴火は発生しませんでした。

火山性地震および火山性微動は時々発生しました。

また、^{あたけ}御岳火口では、夜間に高感度カメラで火映を時々観測しました。

諏訪之瀬島では、長期にわたり噴火を繰り返しています。今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石³⁾が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

【噴火予報発表中の火山の活動状況及び予報事項】

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

- 1) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。1 μrad (マイクロラジアン) は1km 先が1mm 上下するような変化量です。
- 2) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。
- 3) 噴石については、その大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。本文中「大きな噴石」とは「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とはそれより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことです。
- 4) 火山ガスと火山灰等の混合物が、水面や地表面を高速で横方向に広がり、地表の物を巻き込む現象で、人体や建物、船舶等に大きな被害を与える恐れがあり、とても危険です。
- 5) 阿蘇山では、火口内の火山灰や噴石を噴出する孔を火孔と呼んでいます。火山活動に伴い、火孔の位置が変わったり、同時に複数個の火孔が開いたりしたことがあり、明瞭に区別するために、西暦の下2桁と通し番号で命名しています。
- 6) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現しています。
- 7) 火山活動による地殻の伸び縮みを観測する機器。マグマ溜まりや火道内の圧力増加によって生じる火口周辺の変化が観測されることがあります。1 μstrain (マイクロストレイン) は1km の長さのものが1mm 伸び縮みするような変化量です。
- 8) 九州地方整備局大隅河川国道事務所が黒神河原上流に設置したカメラ等によります。

注) 本資料は速報的な内容を含みます。データについては精査により、後日修正することがあります。詳細については、毎月発表の火山活動解説資料を参照してください。

http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

【参考】 噴火警報・予報と噴火警戒レベル等の対応表

| 噴火警戒レベル対象火山 | | 噴火警戒レベル対象外の火山 |
|----------------|--------|---------------|
| 噴火警戒レベル(キーワード) | 警報・予報 | 警戒事項等(キーワード) |
| レベル5(避難) | 噴火警報 | 居住地域嚴重警戒 |
| レベル4(避難準備) | 火口周辺警報 | 入山危険 |
| レベル3(入山規制) | 噴火予報 | 火口周辺危険 |
| レベル2(火口周辺規制) | | 平常 |
| レベル1(平常) | | |

海底火山については、噴火警報(周辺海域)(キーワード:周辺海域警戒)と噴火予報(キーワード:平常)で発表します。印のついた噴火警報は、特別警報に位置づけられています。